



114  
A-821  
3

極秘

第一種

陸軍省 第一〇號 五

明治三十一年九月廿四日芝罘發

# 陸軍少兵大尉太田八十馬第十一報告

一、濱海州ニ於テ告知ス



告知ス

今回英國楊梅島(一名養馬島)沿岸一帯ノ地ヲ  
借り陸軍ヲ屯紮スルコト、ナセリ其地域タル沿海  
十英里東ハ龍鬚頭島ヨリ西ハ馬山塞ニ至リ南ハ  
奎甲山ヨリ北海岸ニ至ル英國ハ此地域内ニ於テ  
隨意ノ地ヲ擇テ管墾ヲ修築シ陸軍ヲ駐紮シ  
以テ沿海ノ太平ヲ保タントス然レモ中國原ト紮ス



ル所、防營ハ遷移スルニ及ハス軍民百姓等平常  
ノ如ク業ニ安ンジ敬馬惶ヲ為スコト勿レ事アレハ仍  
ホ地方自主権ノ管理ニ帰ス彼レ地ヲ借り軍ヲ  
駐ムルニ過キス云々  
此ノ告示文中龍鬚島トハ図上ニ見當ラス若シ成山  
角ノ龍鬚島ノコトナレハ沿海十英里トハ受取リ難  
シ鬼モ角原文ノ記スル所斯ノ如クナレハ不取敢報  
告ス

二清國ノ海軍教育(亦九報告参考)  
旅順口ニ於ケル清國北洋水師練勇學堂ニテハ三  
百人ノ生徒中ヨリ五十人ヲ拔擢シテ砲術ニ関スル  
特別ノ教育ヲ為シ卒業ノ後ハ軍艦砲手ノ補充  
ニ充ツ又他ニ三十人ヲ選ヒ機関ニ関スル特別ノ教育

ヲ為シ卒業ノ後ハ機関手ノ補充ニ供ストナリ残り三  
百二十人ヲ以テ水手ト為シ旅順東院ニ於テ毎時  
ヨリ全十一時迄諸種ノ術科ヲ教習シ午後三時ヨリ  
全七時迄大廳内ニ於テ學科ヲ施行シ居レリ斯ノ如  
ク教練三ヶ月ヲ經テ練習艦復濟甯ニ乘リ込マシ  
メ實地ノ練習ヲ行フテ數月然ル後三等水手ニ任  
シ之レテ各軍艦ニ配當スル規定ナリ又天津水師學  
堂ヨリ派遣ノ生徒三十四人ハ航海機関砲術ノ三  
班ニ分チ教習シ居レリ

三山東省兵制ノ改革  
先般芝罘ヨリ天津ニ赴任セシ元トノ高武軍ノ統領  
孫金彪ハ今回山東省ニ於ケル兵備擴張軍改革  
ノ主任ヲ命セラレ更ラニ山東機噐局事宜總弁・烟

台海防事務ヲ兼攝スルコトナレリ而シテ其改革ノ  
大要ハ粗末左ノ如クミレテ教官ニハ武備學堂ノ卒業  
生ヲ以テ之レニ充ツルト云フ

(1) 山東全省ノ兵勇(嵩武軍東字軍等)ヲ致聖革シ  
漸ク逐フテ全ク洋式教練ニ改ムルヲ  
(2) 新タニ三千ノ兵丁ヲ添募シ分チテ六營ト爲シ當  
分嵩武軍ニ配屬セシムルヲ

右ノ関レ孫ノ配下タル鈕洪ト云フ者去ル十三日三千挺ノ  
小銃ヲ調弁スルト稱シ上海ニ向ヒ當地ヲ出發セリ  
孫ハ目下濟南府ニ在リ病氣ニ罹リ保養中ナリ

四、新造清艦  
獨逸ニ注文セシ清艦海琛號ハ先般上海ニ到着シタル  
由廻航員ハ悉ク獨逸人ニシテ今尚ホ獨逸ノ國旗ヲ

掲ク此船ニハ膠州灣ニ輸送ス可キ獨ノ將校四名砲  
兵隊三百人及ヒ「クルップ」砲六門ヲ搭載シアリト云フ

五、各國軍艦

本月十二日當港ヲ拔錨シ山海関ニ向ケ航行セシ英國  
艦隊ハ全ク十二日夜當港ニ入りタリ翌二十三日午前十  
時左記軍艦ノ外ハ何処ニカ出港セリ多分太沽ニ  
向ケ廻航セシナラントノ風説アリ  
目下當港ニ碇泊ノ軍艦左ノ如シ(九月廿三日午後六時測)

英艦 ウチクトリアス      ホナベンチユアー  
艦名不詳一      水雷艇一

露艦      ロシヤ

清艦      飛鷹

六、開平ノ石炭ニ就テ

開平ニ於ケル礦航ハ從來其ノ數二十一ヶ所ナリシカ先般ニヶ所ヲ増穿シ二十四ヶ所トナレリ而シテ石炭採掘噸數ハ毎日平均八十六噸ナリト聞ク

七、膠州灣ノ近況

膠州灣ニ於ケル獨逸ノ新提議ニ就テハ總理衙門ヨリハ未タ何等ノ回答ナシ又其百三十哩ノ地域ハ何處ヨリ何處迄ナルヤ其ノ後種々調査シテ未タ明瞭ナラス近着膠州通信ニヨレハ獨逸ハ土民ニ對シテ細ノ事柄モ忽チ金ヲ料シ又地主ノ不果諾モ係ラス一畝平均十四大錢十十ノ價額ヲ土地ヲ買収スル等即墨嶗山一帶ノ地方ハ利本畑多ク土民之ニ依リ生計ヲ營ム居レリ然ルニ獨人ハ矢張平均十圓ノ算ナリ法ニ沒収的ニ其ノ地ヲ購入ニ非常ニ人民ノ怨

恨ヲ未タモリ其ノ施政愈々出テ、愈拙ニ日ニ増シ民心發離スルノシナリ近來モ相替ラズ李道台ニ對シ獨逸逆政ノ下ニシテ願ハストノ苦情ヲ申出ル者引キモ切ラズ既ニ去ル十四日ハ總署王大臣ノ命ニ依リ清國軍艦通濟清早ハ一先ッ李道台ヲ歸任セシメシカ為メ青島ニ至リシカバ之ヲ見ルヤ教百人ノ土民ハ道台ノ公館ニ推シ寄セ道台ヲ取り遁ミテ我等ノ志望ヲ訴フル者ナケレバ決シテ船ニ乗スルナト異口同音ニ騒ギ立テタリ李道台モ之レニホドク閉口ニ無理ニ乘船セシトセバ如何ナル珍事ヲ引キ起スカモ測ラレザレバ命合トハナラズ事情是非ナキ次第ナレバ先ッ當分ノ内帶通決シ通濟ヲシテ是之果ニ歸ラレメタリ土民ハ通濟ノ立テ去ルヲ見テ初々安堵ノ思ヲ為シ無事ニ解ト

敬セリ之レガ為メ本道台ハ人民ノ俘虜同様ニテ罪ナクテ  
諺ナリノ月ヲ詠ルノ境遇ニ陥リシコソク氣ノ毒ナシ

八、膠州灣ニ於テハ獨シノ兵力

膠州灣ニ於テハ獨シノ兵力ニ付テハ八報告膠州灣通  
信ノ部ニ陸兵ハ三營ニ分シ一營ハ將校以下三千百  
十七名總計九千ニトアリ之レハ三營合シテ三千百  
十七名ノ誤聞ナレバ謹テ茲ニ正誤ス其ノ後一團ハ五百  
名一團ハ三百名来リ着シタルヲ以テ三千九百十七名ト  
ナル之レニ及来ノ海兵四名砲兵四百六十九名ヲ合スレバ  
五千三百七十七名トナル其ノ甚シキ異筆ナキ現在膠  
州灣ニ於テハ獨シノ兵力トス

### 第十一報告附録

本報告ヲ草ニ畢ルヤ本日巳午左ノ北京急信ニ

接ス(先ニ三日朝霞信)

- 一、清帝逃閉セラレ西太后政權ヲ執ル康有為ノ行方不明
- 梁啓超ハ日本公使館逃ケ込ミタリ太沽碇泊ノ
- 大島艦ニ投スル者ノ如ク政界リ全ク一変ニ專ラ志士ノ
- 逮捕ニ急ナリ
- 二、先ニ三日張蔭桓家宅搜索セラル又一名ノ廣東人
- (姓名不詳)捕ワル昨今北京ノ景況恰モ日本安
- 政ノ昔ヲ想像セラル
- 三、伊藤侯ノ謁見ハ僅カニ十五分時ニ過ギザリシ
- 芝罘港ノ英艦(本報告参照)
- 昨夜ヨリ当港碇泊ノ英艦ハアラクリナール号ト

年(水雷)二隻トハナレリ他威衛海ノ分ト共ニ太  
沽ニ卦ケリト聞ク

終